

哀公あいこう曰いく、何を才全さいまつたしと謂いうと。仲尼ちゅうに曰いく、死生存亡しせいそんぼう、窮達きゅうたつひんぶひんぶ、けんふしょうけんふしょう、きよきよ、かんしよかんしよ、これことこれこと、へんへん、めいめい、ぎようぎよう、ちち貧富ひんふ、賢不肖けんふしょう、毀誉きよ、寒暑かんしよは、是事これことの変へんにして命めいの行ぎようなり。知もちそそはじはじ、うかがうかが、あたあた、ものもの、ゆえゆえ、もつもつ、わわ、みだみだ、たた其の始めを規れいうこと能わざる者なり。故に以て和を滑すに足らず、靈府れいふに入るべからず。これをして和豫わよせしめ、物と春を為す。是接これつぎて時ときを心こころに生しょうずる者なり。是を才全さいまつたしと謂いうと。是接これつぎて時ときを心こころに生しょうずる者なり。是を才全さいまつたしと謂いうと。何を才徳形なにかれずと謂いうと。曰く、平なる者は水の停まりの盛なり。其れ以て法と為すべし。内にこれを保ちて外に蕩かざればなり。徳なる者は成和の修なり。徳の形れざる者は物離るること能わざるなりと。

【大体の意味内容】

哀公あいこうはたずねた、「様々な才能が完全であるとは、どういうことであるか」と。孔子こうしは答えた、「死亡しぼうと生存せいぞん、貧窮ひんきゆうと栄達えいたつ、賢けんと愚ぐ、毀れと誉れほま、寒ささむと暑さあつなどは、事象じしやうの変化へんかであり、万物の生命運動せいめいいうんどうです。人間の知性ちせいではその根本始原こんぽんしげんをうかがい知しることはできません。したがって、そのような変成流転へんせいりてんの現象げんしやうが宇宙の本質的調和ほんしつてきちやうわを乱みだすといふことはありませんし、靈れい的いてきな核心かくしんにまで侵入しんにゆうしてくることはできません。万物の生々流転ばんぶつせいせいりてんをも、大いなる調和ちやうわの現れとし、異なる物と物との融合ゆうごうが、新魂あらたまの春はるを為すのです。そのようにして様々さまざまな和合生成わごうせいせいの連続れんぞくとしての時の流れを人々の心に生みつけて行くような才能さいのう、つまり天・地・人・神の四才ちじんしんしさい全てを整ととのわせてしまう仁徳じんとくを、『才全さいまつた』といふのです。」「ではそのような仁徳じんとくが外に現れないというのはどういふことであるのか。」「平衡へいごうとは、

たとえば水が静止したように見えるのも、実は水分子どうしは盛んに働きかけあっていることで、バランスが保たれているという、動的な平衡であるのです。こうしたダイナミズムが、万物をあらしめる法則です。内部では想像を絶するすさまじさで命ある要素がぶつかり合っているが、その激しさは外には見ええず、無為無風の静けさとしか見えないわけです。それと同様に、一見柔和で穏やかな、何事にも激昂することのない仁徳者は、実は誰よりも世の中の矛盾や不条理に敏感で心を傷めています。悪辣なものへの怒り、虐げられる者の哀しみ、絶望などをすべて抱え込み、苦しみのうち回る思いを宥和し修整する者です。仁徳を表面に表したりひけらかしたりしない者は、そのようにあらゆるマイナスのストレスを一身に引き受けてくれる者です。なので、おぞましい情念を持て余した者たちは、それを受け入れてくれる哀駘它に惹き寄せられ、離れることができなくなってしまうのでしょうか。」

醜男哀駘它シリーズの3回目最終回です。

生物学者福井伸一氏の「動的平衡」理論が、二千年以上前のこの『莊子』にハッキリと展開されていることにまず驚かされます。この世にありとあらゆるもの（有機物）は、一つの個体として固定されたもののように見えますが、実はその内部で細胞の分裂生成や死滅のせめぎあいで行なっているから、外見上は「固定」されているように見えるだけです。分子レベルでも絶えず激しく化学反応しあっているのですが、そうしたダイナミズムによってかろうじて、あたかも静止しているような固定感、安定感を維持しているわけです。日常の様々なこと、ありきたりで平凡な、「変わり映えのしない」物とは、じつはすべて、こうした激しい活動の上に成り立っていると思えばいいでしょう。

莊子はそうした物理現象のレベルにとどまらず、人間精神においても、仁徳とか道徳とかいうものは、いかにもそれらしく顕わさず、むしろ逆の、おぞましく醜い情念と、美しく清らかな思いやりとの相克により、一見何の輝きもないようなしよぼさにおいてこそ認められると主張しているのです。哀駘它是醜男なのに不思議とみんなの人気者、それは心がとても素晴らしいから、という話かと思ったら実はそういうことではなかったのです。逆に、多くの女も男もみんな醜い面があって、自分の穢れをなすりつけられてくれる犠牲者であり続けてくれるから、哀駘它から離れられなくなっている、ということだったのです。